

嶋満神社と浮島の関係



しくみ

- 嶋満神社・浮島頂上 526.275km - 大沼浮島 - 上社 526.275km
助役（同距離）比叡山延暦寺文殊楼 紀貫之墓 欣浄寺 526.275km
- 浮島頂上 120.10km - 龍谷山水間寺三重塔 - 上社 120.10km
- 嶋満神社 101.65 km - 雄略陵古墳 - 上社 101.75 km (10mズレ)
- 浮島頂上 98.53km - 柏村稻荷神社 - 上社 98.53km
- 嶋満神社 92.98km - 大融寺 - 上社 92.98km
- 浮島頂上 89.28km - 東谷神社 - 上社 89.28km
- 浮島頂上 89.28km - 禅福寺 - 上社 89.28km
- 嶋満神社 80.58km - 上葦穂神社 - 上社 80.58km
- 浮島頂上 106 km - 池野ゑびす神社 - 上社 106 km



負頂角

大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるにちがいない。



右脇侍角

上社

祭神/久久能智神、大山祇神と、埴安神、宇迦之御魂神 神宮 125 社の内、外宮の撰社「打懸神社」「大河内神社」「志等美神社」が境内地に鎮座。正 16 年 9 月の畠券には二俣社と称し、大永 6 年 12 月の田券には二俣八王子社とあり、天文 6 年 11 月の畠券には牛頭社としてある。明治 3 年（1870 年）10 月、「牛頭社」の名前が仏教風であるとの理由で現社名「上社」に改称。明治 16 年（1883 年）、当社を含む外宮撰末社の三社が旧社地である上社の境内に復した。

三重県伊勢市辻久留 1 丁目 1 3-6





左脇侍角

嶋満神社・浮島頂上

祭神/譽田別尊（相殿神として市杵嶋姫命を祀る）

貞観年中（9世紀）に既に正二位を賜る 古代京都府北部を治めた海部氏一族の発祥の地、そして先祖を葬る魂のよりどころが、この舞鶴であり、その中で最も重要な地が、嶋満神社を中心とする浮島地域なのです。

そのむかし、神様がここに国を造ろうとして、高い山に登り、大きな声で「カレキ、カレキ（おいでおいで）」と呼んだところ、4つの島が集まってきた。戸島、蛇島、鳥島、そして後ひとつが瀧嶋（浮島）であるという。長谷山古墳の主は、古代京都府北部の開国神であり、嶋満神社が彼ら古代海人の祭祀に発しているらしい。

<http://tanioka.my.coocan.jp/hanamaru/iware.html>

京都府舞鶴市溝尻

助役（同距離）

延暦寺文殊楼

文殊楼は、もとは常坐三昧一行院として最澄によって弘仁9年（818）に建立が企画された。しかし建立は遅れ、最澄示寂後のことになる。円仁は入唐中の開成5年（840）7月2日夜に、東に一谷を距てた峰の上に光を見ており、これによって心に文殊閣の建立を誓ったという。帰朝後の貞観2年（860）、円仁は文殊楼建立の奏上を行っており、詔によって造料を給付された。貞観3年（861）には五台山の霊石を建立地の五方に埋めており、文殊楼の建立を開始した。ところが文殊楼は円仁在世中に完成せず、円仁示寂後の貞観6年（864）10月に完成。文殊楼会が実施され、僧都道昌（798～875）を導師とし、僧都恵達（796～878）を呪願とした。その後何度も焼失・再建を繰り返した。

<http://www.kagemarukun.fromc.jp/page023i.html>

大津市坂本本町4220

備考 ほかの堂宇がそれぞれ同距離に位置する。文殊楼が延暦寺の重要な中央施設なことがわかる。



紀貫之墓

我が国最初の日記文学「土佐日記」。紀貫之（872～945?）が国司の任を終えて京の都に帰るまでの

旅程を、女性の筆に託し、仮名文字で書いた。

大津市坂本本町

欣浄寺

浄土宗 本尊/阿弥陀如来

三重県津市白山町三ヶ野 2 1 8 6

■ 嶋満神社山頂 120.10km - 龍谷山水間寺三重塔 - 上社 120.10km

勝頂角

水間寺

聖武天皇（724～749）年が四十二才の時に病気になり、夢のお告げがあった。「この奈良の都より西南の方角にあたって観世音菩薩がご出現なされる。その尊像を都にお供をしてご信仰申せ」と。聖武天皇は、仏像を探すことを行基菩薩に命じた。そうして到達したのがこの水間の地。当時は霊峰葛城の峯より流れる水の間に巨岩があり、原始林に囲まれた神域だった。突然「十六人の童子」が行基菩薩を谷間に導き、巨岩の上に白髪の老人がおり、手に一体の仏様を捧げ、「汝を待つこと久し」と言って、自分の手首を自ら噛み切って、その尊像を行基菩薩に手渡し、自分は龍となって昇天したと由来記に記されている。この仏様は、一寸八分（約6cm）の閻浮陀金の聖観世音菩薩で、謹んでこれを天皇に捧げたところ、病は全快。この仏様を現地にお祀りするようにとの勅命を下し、その命をもって行基菩薩は、堂宇を建立し、厄除け観音として庶民にも信仰されるようになった。

www.mizumadera.or.jp

大阪府貝塚市水間 6 3 8



雄略陵古墳

雄略天皇 479 年没、前年に伊勢外宮を建立。即位後も人を処刑することが多かったため、後に大悪天皇と誹謗される 大阪府羽曳野市島泉 8 丁目 4

柏村稻荷神社

古来この辺りは旧大和川が流れていたが、たび重なる洪水により附近の人々は大へんな災害を蒙るので当時川筋に当る今米の庄屋中甚兵衛親子二代が五十年間幕府に訴えつづけ、遂に許可を得て現在の大和川に付替えられたのが、宝永元年（1704 年）のこと。そこで旧川の川床や沼地を三年がかりで開墾し 2 4 町歩余りの新田とされたのが大田村の柏原仁兵衛芳次で爾耒同氏を偲び柏村新田と称えられる。起工を決意した仁兵衛は直に伏見稻荷神社に詣で御分霊を勧請してこの地に奉祀された。工事の完工は勿論、住民の家内安全、五穀豊穰を祈願され別名白姫神社とも称されるが、祭神は倉稻魂神と申し柏村の鎮守社として崇敬されている。

大阪府八尾市柏村町 4 丁目



大融寺

弘仁 1 2 年（821）にこの地に弘法大師が嵯峨天皇の勅願により創建。本尊の千手観世音菩薩は、嵯

娥天皇の念持仏を下賜され、天皇の皇子河原左大臣源融（みなもとのとおる）公が、この地に八町四面を画して、七堂伽藍を建立され、浪華の名刹として参詣者でにぎわった。当時を偲ぶ境内地の名称は今に伝えて、太融寺町、堂山町、神山町、扇町公園、野崎町、兎我野町等として残っている。

奈良県生駒市西菜畑町1624

東谷神社

由緒や創建年代は不明。この社には村人の篤(あつ)い信仰心から宮守を筆頭とする宮座が今も残っており、古式に則った年中行事が続けられ、以前は宮守が神主の役割を果たしていた事が解る。江戸時代には東谷神社の神宮寺として「見性寺」があり、「東谷神社の宮座行事」は、享和二年(1802)の記録によれば見性寺の行事として、正月二日の牛玉札の配布、正月六日の勧請縄掛け、二月五日の御弓二月八日と八月八日の大般若経と、毎月の法華経読経などが行われていた。神仏分離によって神宮寺は整理されたが、その宮寺の年中行事は宮座行事に組み入れられて今も受け継がれている。

京都府相楽郡精華町柘榴垣内

禅福寺

臨済宗妙心寺派 京都府相楽郡精華町大字祝園西

上葦穂神社

祭神/伊邪那岐命 国常立命

孝徳天皇の白雉元年(650)二月に阿星嶽より五色の御旗が降り

祀られたのが創祀と伝えられている。社記によると「阿星嶽に正天より五色の御幡降り貴翁忽然として顕れ給う。諸人これを拝し奇異の思をなす所に告げて白く。汝少しも疑ふことなかれ、朕は伊邪那岐大神なりと。其の詔終らざるに忽一朵の雲降りければ之に乗りて昇天したまう」とある。この御幡の降った地を御幡塚として現在も聖地とされている。その後社殿を設けて祀られ、旧社号を白雉神社と称していた。明治四十四年に上葦穂神社と改称。本殿は元禄八年正月十八日に再建されている。旧社格村社

http://www.shiga-jinjacho.jp/ycBBS/Board.cgi/02_jinja_db/db/ycDB_02jinja-pc-detail.html?mode:view=1&view:oid=528

滋賀県湖南市柑子袋

池野あびす神社

詳細不明。岐阜県池田町青柳

備考

大沼浮島を封じる十字架封印型しくみ。脇侍角の上社には、久久能智神(木の神)、大山祇神(山の神)と、埴安神(粘土の神)、宇迦之御魂神(食物神)の大地系の神々。嶋満神社は浮島。神社よりも浮島の頂上につながる。磐座信仰時代、島は聖地だった。大沼浮島からは、嶋満神社も浮島頂上も同じ距離。元々は浮島同士の繋がりだったしくみに、あとから別の勢力が大沼浮島を抑えるために創建したことがわかる。神社とピンポイントでつながる上葦穂神社や大融寺が怪しい。嶋満神社には新羅に出陣した神功皇后の息子の譽田別尊(応神天



皇・八幡神)が祀られている。出雲系海部氏の時代は浮島の弁財天を信仰していたのだろう。大沼浮島も弁財天よりも後に作られた稲荷神社が有名になり、弁財天の存在は忘れられている。出雲系の神を天孫系の神にすりかえる典型的なパターンだと思う。

「文殊楼」は、延暦寺に大沼浮島や早池峰山から気を引き寄せるための重要な仏堂。何度も焼失しているのは、反対勢力の仕業だろう。同じしくみが三嶋神社(浮島)-早池峰山-伊勢外宮にもある。